

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学:山形大学》

《学年:1年》

《年齢:19歳》

《氏名:磯部慎太郎》

《活動地域:朝日町》

地域活動前の地域の印象

- 「朝日町ってどんな地域なんだろう」

朝日町に訪れたことがなく地域の概要をつかんでいませんでした。インターネットで朝日町を調べ以下のことが見えてきました。

- 「りんごの生産やウサビで有名らしい」

果樹を中心とした農業や、高級家具メーカーである朝日相扶製作所があることや、たまに目にする桃色ウサビが生息しているが分かりました。そのようなことから、イベントを実施するうえで活かせるコンテンツは多くありそうだが、交通面が弱点になりそうという印象を受けました。

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

- どの地域にも資源はある

活動を通して朝日町の歴史や、広がる景色、そこに住む人など地域には生きる資源が多く存在するということを認識しました。

- 地域にある資源を付加価値化することが重要

地域には生きる資源が多く存在する一方で、地域の魅力として捉えやすい資源は限られていると感じました。そのことから、地域にある資源をいかに魅力的に付加価値化するかが重要だと考えました。

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

- 若者が地域に飛び込める機会の確保

この事業がなかったら朝日町に関わりを持っていませんでした。このように地域に入り込む機会がなければ、地域活動を始めるとは難しいのが現状だと感じます。このことから若者が地域に飛び込める機会をつくることが重要だと気づきました。

- 熱の冷めない環境を自分でつくる

若者が地域へ飛び込んだ後には、「自分がこの地域やチームで何をできるのか」を模索し、自らの役割を見つけていくことで熱の冷めない地域活動に繋がっていくと考えました。このようなことから「みらい創造」ができるのではないかと思いました。

地域活動後の地域の印象

- 「朝日町っておもしろい」

この事業に参加する前は朝日町について何も知りませんでした。地域活動を通して地域にある資源や魅力を多く発見しました。このことから朝日町には未来を創造するチャンスが溢れているという印象を受けました。

- 「もっと朝日町を知りたい」

朝日町の資源や魅力を多く発見しましたが、まだまだ知らないものがあるように思います。今後とも自ら朝日町を探究していきたいです。

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

- 1つ1つに意味がある

雰囲気をはぐすためのBBQや交通面の難しさを実感するための車移動、村山チームと自チームを比較するための中間セッションといったプログラムのすべてに意味があるのだと印象を受けました。

- 場面によって思考の転換が必要

プログラムにはアイデアを発散する時間と、企画として集約する時間が設けられました。そのような場面では思考の転換が必要だと気づきました。

本事業参加をどのように今後に活かしていくか

- 地域の飛び込みに活かす

この事業は地域参入のステップとして参考となるプログラム編成だったと感じます。今後、新たな地域に飛び込むときに地域参入のステップとして活かします。

- 「やまがた」での地域活動に活かす

これからも続いていくやまがたでの地域活動において重要なポイントを数多く学びました。この発表でアウトプットしたポイントなど、本事業で学んだことを地域活動で実践していきます。

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》 山形大学

《学年》 3年生

《年齢》 21歳

《氏名》 榎本早希

《活動地域》 朝日町

地域活動前の地域の印象

- 自然豊か
- 田舎

←ぼんやりとした印象しかなかった

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

- 同じ田舎でも個性がある
- 出身地でなくとも思い入れは生まれる
- 実際に足を運ぶことが重要

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

- ブレインストーミングの重要性
- 円滑な話し合いのためには雰囲気づくりから
- 現実的に企画を行う難しさ(食品提供や告知など)

地域活動後の地域の印象

- 解放感がある
- 朝日町特有の魅力が沢山ある(タフティング、棚田、りんごなど)
- 思い出の地

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

- やりたいことと実際に出来ることをすり合わせ、企画を完成させたこと
- 感じたことをその都度言語化したこと
- グループのメンバーとの関わり

本事業参加をどのように今後に活かしていくか

- 企画の発案から実行までの流れや、役割分担における反省点が見えた→今後の企画運営に活かす
- ゆかりのない土地でも魅力を発見し、思い出ができた→地元以外の地域との関わりも積極的に増やす

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》 山形大学 《学年》 4年 《年齢》 21

《氏名》 遠藤修守 《活動地域》 朝日町

地域活動前の地域の印象

- 若者が少なく、高齢化が進んでいて、活気があまりない閉鎖的な空間
- 文化や伝統の担い手が少なく、廃れてきている
- 一方で、自然などの資源は豊か

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

- 一見すると自分の関心外にある物事でも、実際に触れてみることで面白さや興味が生まれることを実感した。これまで距離を感じていたテーマも、体験したり現場を見たりすることで「なぜ続いてきたのか」「どこに価値があるのか」が具体的に見えるようになった。さらに、地域の方と関わり、背景や思いを聞くことで理解が深まり、地域の魅力は体験と人との交流を通して発見されるものだと感じた。

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

- 未来を創るには、地域の魅力を発見し、それを次世代につなげていくことが必要。次世代につなげていくためには、地域の魅力を言語化できる人材が求められる。その魅力を経済的な価値に繋がる形にしていく力が地域を持続させていくうえで重要だと感じた。

地域活動後の地域の印象

- 若者や地域外の人が入ってくることを歓迎している
- 地域の魅力や伝統、文化を継承しようとする熱量を持った人がいて、魅力的な人との繋がりがある
- 知られてない魅力や資源がたくさんある

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

- 地域に愛着を持ってもらうためには、人とのつながりが重要だと実感した。実際に地域の方と関わること自体が楽しく、その楽しさが地域への関心につながった。また、人を通して地域に触れることで、文化や営みがより身近に感じられ、関わり次第で地域の印象は大きく変わるのだと感じた。

本事業参加をどのように今後に活かしていくか

- 行政やまちづくりの仕事に携わるわけではないが、これからも地元山形に住み続ける者として、地域に積極的に関わっていききたい。そして、山形や人々の魅力を自らの肌で感じ、魅力を発信していきたい。

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》 東北芸術工科大学 文化財保存修復学科

《学年》 3年 《年齢》 21

《氏名》 川音晴苗 《活動地域》 朝日町

地域活動前の地域の印象

- 森林、田畑が多い
- 交通の弁がよく無い
- 人が少ない
- 高齢が多そう
- 活気がない



マイナスなイメージ

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

- 今回の事業においては、「地域の外から来た人の視点」であるという点についてが特に重要であると感じた
- イベント内容を企画するにあたっての話し合いで出た数々のアイデア
→地域について知らない側の視点から見ることで、地域の人が思っていることとは違う魅力を発見できるのではないかという気づきを得た

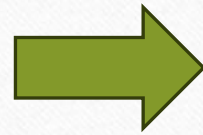
今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

- 地域活動やまちづくりなどの参加はハードルが高いイメージ
→自分が参加しようという意思がそもそもなかったためきっかけを作れていなかった
- 大人も若者も関係なく、地域を良くするという意思のもとそれぞれが主体となって参加していくことが重要

地域活動後の地域の印象

活動前の印象

- 森林、田畑が多い
- 交通の弁がよく無い
- 人が少ない
- 高齢が多そう
- 活気がない



活動後の印象

- 自然豊かで静かな環境
- 地域の人々の温かな雰囲気
- 賑やかな場所では感じられない癒しを得られる

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

- 今まで訪れたことがなく、魅力を知らない場所での体験はどれも印象的だった
- さまざまな方達との交流
→人と人のつながりを強く感じた

本事業参加をどのように今後に活かしていくか

- この活動を通して自分の地元貢献したい、地元をもっと良くしていきたいという思いが強まった
- 活動の中で得た多角的な視点から考えるということや、人とのつながりということを大切にしながら、自分が住んでいる地域を良くしていくために自分は何ができるか考えていきたい

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》 山形大学

《学年》 3年

《年齢》 21歳

《氏名》 佐藤彩瑚

《活動地域》 朝日町

地域活動前の地域の印象

- りんご
- スキー場 (Asahi自然観)
- 山形市より田舎

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

- 画面越しや話を聞いただけでは伝わらない魅力がある
- そこに住んでいる人にとっては普通のこと気付けない魅力も、初めて来た人たちには魅力に感じることもある

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

- 告知の重要性
- 「タフティング」「古民家」だけでなくそれらにまつわるストーリーも併せて伝えることが必要
- ブレストの重要性
- 何気ない会話から企画につながるアイデアが生まれることもある

地域活動後の地域の印象

- 棚田
- 本当の自然？（見渡してもビルがない）

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

- 実際に現地に赴くことで気付く魅力もあったこと
- 初対面の人同士でもいい関係を築いて企画を進めることができたこと。
むしろ多様な価値観が刺激になりアイデアが生まれることもあった
- グループによってそれぞれの色があったこと

本事業参加をどのように今後に活かしていくか

- 何気ない会話にもアイデアが生まれるきっかけがあるかもしれないことを意識して生活する
- いろいろな立場、角度から物事を見ていきたい

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》 山形大学 《学年》 4年 《年齢》 21歳

《氏名》 本間亮成 《活動地域》 朝日町

地域活動前の地域の印象

- 自然豊かで人口が少なめ
- 住人における高齢者の方の割合が高い
- 交通の便があまりよくない

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

- SNSなどで動画等を見るだけでその地域について知った気になるが、実際に地域を訪れなければ発見できない魅力が存在する
- 地域の歴史等を知ってもらい価値化することで、人口が集まる都市部ではなく地域に人を集めるきっかけとなる。
- 地域の魅力を知ってもらうために、発信の仕方が重要

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

- 若者ならではの地域の魅力の発信の仕方や企画想像が地域の活性化につながる
- 同世代の人たちに地域の魅力を知ってもらって地域の活動等を継続させるためには、まず自分が地域を訪れて魅力を語れるようになることが必要
- 若者が地域に興味をもつきっかけとなるような企画や活動も大事

地域活動後の地域の印象

- 人が温かく、都市部よりも人と人のつながりが強い
- 自然が豊かなだけでなく、地域によって自然にも特徴がある
- 知らない魅力がたくさんあり、知ってもらうための活動が重要

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

- 企画について話し合う前に行った仲を深めるBBQが、一見話し合いとは関係ないように見えたが、話し合いをより良いものにするために必要であったこと
- 自分は地域活動に初めて参加したが、地域活動に積極的に参加している若者が多くいたこと
- 活動を重ねていく中で受け入れ先の方の人柄や地域について少しずつ知っていき、自然と自分から地域や受け入れ先のことについて知りたいと思った事

本事業参加をどのように今後に活かしていくか

- 地域に限らずSNSを通して様々な情報を得て知ったつもりになっていることが多いのではないかと感じたため、今後は知りたい事をSNSで検索するだけでなく実際に自分の五感で感じて知っていききたい
- 企画を構成していく中で行ったブレインストーミングや案を固めるといったプロセスは、今後社会人として企画をする際にも活用していきたい